

D-2 児童の生活構造の時代的変遷に関する研究(その2) 遊びとテレビ視聴  
大妻女大家政 森上史朗 石井とめ子 馬場吉三

本報告の研究目的、方法等は(その1)に同じであり、ここでは現代の幼児の遊びとテレビ視聴についての分析結果についてのみ述べる。

(1) 遊びの種類と玩具の選択傾向。遊びは怪獣ごっこ、着せかえ人形、ブロック遊びなど、マスコミヤ商業主義の影響を受けていると見做されるものが多く、また、使用玩具にも同様の傾向が認められた。さらに、終戦直後の各種の調査では、遊びの種類や使用玩具における性差が比較的縮小してきているということも報告されているが、今回の調査ではそれらの性差が再拡大している傾向がうかがわれた。

(2) 遊びとテレビ視聴の関係。今回の対象児のテレビ視聴時間は、1日3時間以上のものが54.5%を占めていた。これは家庭における生活時間の3分の1に当たり、この点からみる限り、昔の遊び中心の生活から、テレビ中心の生活へと移り変わりつつあるといえよう。また、テレビ視聴時間と遊びとの関係では、外遊びをしている子どもよりも、屋内遊びをしている子どもの方が視聴の時間はいくぶん多い傾向がみられた。つぎに、今回の調査では、家族みんなでみる人気番組のある家庭が、66.5%あり、また子どもの番組を親子で一緒にみている家庭も98.5%にのぼっている。現代では、親と子の対話が不足しているといわれる中で、この結果が、現代の家庭において親と子の橋渡しをテレビのみ依存している傾向の反映とすれば、それは問題であろう。